

今日のみ言葉 283 「あなたの罪を霧のように吹き払った」

2018.10.10

私はあなたの背きを、雲のように
罪を霧のように吹き払った。(イザヤ書44の22)

I have swept away your offenses like a cloud,
your sins like the morning mist.

だれの心の中にも、過去を振り返るとき、さまざまの自分の罪が思い起こされるであろう。

人間は、いかなる能力があり、環境もよく育ちのよい人であっても、その心の中には、真実や愛、あるいは正しい道に反したことが限りなくあると言えよう。

ここでいう罪とは、いわゆる犯罪にあたる罪を言うのではなく、そうした罪も含むが、そのような行動に至る前の心の動きまで含めて言う言葉である。人を殺傷せずとも、憎しみをもつことが、相手を心の中で殺すことであり、重い罪だということになる。

「あなたがたが知っているとおりの、すべて兄弟を憎む者は人を殺す者である。(Iヨハネ 3:15)

最近のさまざまの災害に対して、単にテレビや新聞のニュースを見て、たいへんなことが起こっていると受けとるだけでは罪になる。そうした事態を見て、直接に何かの援助はできずとも、そのような人たちの苦しみや悲しみを思い、神がそのような苦難に負けないように力を与えてください、とせめて祈る心が起こらないなら、罪なのである。こうした高い基準にあてはめるときには、だれでもみな罪を数限りなく持っているということになる。

聖書の世界は、こうした人間の実体とその弱さや汚れから救う神の愛の双方で満ちている。

このイザヤ書でも2500年以上も昔に、この人間にとっての根本問題が記されている。

すべての人間が持っている正しいあり方からはずれていること一罪からの救いが、このように単純、明解に示されているのは驚くべきことである。

しかもそれが人間の意見とか考えでなく、天地創造をされた神の言葉として言われている。

神のほうから一方的に、「なんじの罪、赦されたり」との語りかけをしてくださっているというのである。

同じイザヤ書の45の22 において、「あらゆる国の人々よ、私を仰ぎ望め！ そうすれば救われる」との神の言葉が記されていて、これは上記の内容と一致する。

この神の言葉は、後のキリストの時代以降においては、キリストの十字架を仰ぎ望め、そうすれば救われる という福音メッセージとなった。



カワラナデシコは、その名前のように、河原で咲く事であっても、多くは、こうした山野でみられ、また北海道では、この変種のエゾカワラナデシコが海岸近くで群生しているのを見たことがあります。。

山の草深いところを歩いているとき、この美しい花に出会わずほっとするような、喜ばしい気持ちになります。

その繊細な美しい色合いの花びらは、何のためなのだろうかと思わされます。この植物が生きたためだけならその必要はなく、創造の神の内に秘められた美を示すためのものだと感じられるのです。

大多数の野生の草花は、その色や形なども地味なものが多いなかで、このナデシコは、その花の色、花びらの形がとくに引きつけるものがあります。

最近では、このカワラナデシコは、近くの山々でも見かけることはわずかで、また平地の田畑の付近、あるいは里山のふもとなどでも見かけることがほとんどないように思われます。

これは、この花が日当たりのよい地を好むのですが、手入れが十分になされず放置される場所では樹木や背の高い雑草が生い茂ることになり、日当たりが悪くなり、この花が育たなくなるからと考えられます。

私たち人間の心も、愛の神、真実な神という霊的な太陽の光を受けなければ、花開くことが難しいことを思います。

(写真、文ともにT.YOSHIMURA)